

令和 8 年度 佐久市総合計画審議会第 3 部会（第 4 回） 議事録

日時：令和 8 年 7 月 1 0 日（金）

午後 2 時 0 0 分～午後 3 時 1 0 分

場所：佐久市役所議会棟 第 2 委員会室

【出席者】 重野部会長、小林副部会長、坂江委員、堤委員、麻生委員、
土屋委員、中嶋委員、須江委員、山澤委員

【事務局】 藤巻企画課長、小林企画調整係長、鷺見主任、大塚主任、中澤主任
井出(顕)主任

○協議事項等

次第

1 開会

- ・部会長挨拶
- ・欠席委員報告（今井委員、松崎委員、東城委員）

2 議事

- （1）第三次佐久市総合計画の取組内容（第 4 章・第 5 章）について
質疑、意見

部会長	議題の（1）「第三次佐久市総合計画の取組内容（第 4 章・第 5 章）について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画の取組内容（第 4 章・第 5 章）について【第 3 部会】第三次佐久市総合計画策定シートに係る意見対応表に基づき説明
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。 <特になし>
部会長	回答いただいた通りに進めていただきたい。

(2) 令和7年度佐久市デジタル田園都市国家構想総合戦略評価報告(目標①)について

副部会長	議題の(2)「令和7年度佐久市デジタル田園都市国家構想総合戦略評価報告(目標①)について」事務局から説明をお願いします。
事務局	R7 デジ田総合戦略評価報告書(案)【目標①】に基づき説明
副部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問はあるか。
委員	資料10ページにある「地方創生に資する事業」とは、具体的にどのような事業を指すのか。
事務局	佐久大学の学生が地域で活動する取組や、大学教員が地域に出向き、専門的な知識を公開講座等を通じて市民に還元する取組などを想定している。市としては、こうした活動に補助金を交付している。
委員	佐久大学の学生が地域活動を行っていることは重要である。例えば市広報で毎月特集するなど、実際にどのような活動が行われているのか、市民に分かる形で発信してはどうか。補助金の額も大きく、若い人や佐久大学に期待している面もあると思われるため、取組内容が市民に伝わることが重要である。
事務局	佐久大学は、地域に必要な人材を育成する唯一無二の高等教育機関であり、市として期待するところが大きい。学生の活動内容やキャンパス、図書館の活用など、市民に分かる広報活動について検討したい。
委員	産後ケア事業について、資料には利用件数や人数が示されているが、延べ人数なのか、実人数なのか。また、宿泊型、訪問型、通所型について、どのような事情で利用されているのか、差し支えない範囲で教えてほしい。

事務局	利用件数と利用日数は「延べ」であるため、報告書の記載を修正させていただく。 産後ケア事業の種類については、訪問型は、外出する体力がない人や自宅でサービスを受けたい人が主に利用する。宿泊型は病院で受けるサービスであり、授乳等で休息が取れず、自宅では休めない人が、病院で休息を取るために利用する。通所型は、家に保健師等を入れることに抵抗がある人や、外に出てリフレッシュしたい人などが利用する。宿泊型、通所型、訪問型を選べる形でサービスを展開している。
委員	利用者は、3つの方の中から選択できるという理解でよいのか。
事務局	そのとおりである。3つの種類があり、合計で利用できる上限日数は決まっているが、個人が希望するものを組み合わせて利用できる。
委員	意見として、子どもたちへの1人1台端末の活用について述べる。デジタル機器への接し方や家庭環境は家庭ごとに大きく異なる。端末活用に入りやすい子どももいれば、難しさを感じる子どももいる。また、保護者の教育方針として、デジタルに過度に接してほしくないと考える家庭もある。端末をどの程度教育の中心に置くかについては注意が必要である。 また、デジタル上で見聞きしたことを「分かった」と感じるのと、現実の体験には差がある。物事の理解、人への思いやり、自然や社会への感性などは、デジタルだけで育つものではない。影響が表れるのは10年、20年先になる可能性もあるため、専門家や現場の教員とも共有し、人間形成へのプラス面とリスクを理解した上で、端末活用やデジタル化を進めてほしい。

(3) 第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩き【プロジェクトⅡ】について

副部会長	議題の(3)「第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩き【プロジェクトⅡ】について」事務局から説明をお願いします。
事務局	第三次佐久市総合計画における重点プロジェクト(総合戦略)素案叩きについて説明。
部会長	事務局から説明があったが、御意見・御質問等あるか。
委員	プロジェクトⅡに限らず文章表現の意見となるが、プロジェクトⅢやⅣにおいて、ケーキ、アニメ、漫画など非常に具体的なものが記載されている。全体の文章は産業、気候、地域資源といった大きな視点で構成されている一方、そこだけ細かな具体例が入ることで、狭い表現に見える。全体像を示す文章の中に、ケーキ店や特定のコンテンツを具体的に入れる必要があるのか検討してほしい。 また、人口減少を食い止め、人を呼び込むという考え方だけでは、日本全体で人口が減少する中で、自治体間の人の取り合いになりかねない。少ない人口なら少ない人口なりに、今いる人たちが豊かで満足のいく生活を送れるようにする視点も必要ではないか。今いる人たちが、自分たちのまちはよいところであり、住み続けたいと思えるようにすることに、もっと着目してよい。もう少しそういった表現の文章がそれぞれの分野にあってもよいのではないか。 昔は、現在より少ない人口でも地域が回っていた。今は新しい技術や機械化も進んでおり、少ない人数でも豊かな生活を実現できる可能性がある。市として、人口減少を前提にしながらも、充実した生活を送れるまちを目指すという視点を、各プロジェクトの文章に反映してほしい。 近年、公務員やケアマネジャーなど、社会的役割を担う人材の不足が課題として取り上げられている。担い手不足は、サービスを提供する側にも、サービスを受ける側にも負担を生む。少ない人手で市民の満足につなげるにはどうすべきか、また社会的役割を担う人材をどう増やすかという視点

	を、市として探してほしい。
--	---------------

(4) その他

部会長	その他について事務局から説明をお願いします。
事務局	本日の第4回部会をもって、部会での審議は終了となる。次回は、本年度第2回目となる全体会において審議を行う。次回全体会は、8月17日(月)午前10時から、議会棟2階全員協議会室で開催予定である。内容は、現行計画の令和7年度の進行管理について各部会から報告し、審議会として進行管理に関する答申をまとめること、及びこれまでの審議を踏まえた第三次総合計画素案について審議することである。
委員	先ほど佐久大学に関する地方創生の取組について質問があり、市民に見える形での情報発信が重要ではないかとの意見が出た。学生確保、市内定住、医療・福祉系人材の育成が基本であり、学生のボランティア活動、地域住民との交流、実習、公開講座、専門職向け研修、認知症カフェ、足に関する相談やケアなど、地域に向けた活動を行っている。こうした活動は小さな取組の積み重ねだが、年間では多数の活動となっている。市民に分かる形で紹介する方法を考えたい。
部会長	佐久市には、看護師等を育てる施設があり、医療分野に関して恵まれている面がある。地域に必要な若い人材を育ててもらっていることには大変感謝している。
委員	プロジェクトⅣに関する意見である。稼ぐ力の中で農業については、自然農法、脱炭素、環境負荷低減などが記載されている。一方で、佐久平駅周辺の開発や、臼田地域での産業団地のような動きなど、佐久市が率先して都市開発を進める場合、建設や解体、施設利用に伴い大きな二酸化炭素排出が生じる。こうした排出量について、事業者任せではなく、市として把握や抑制の考え方を持つ必要があるのではないかと。 事業者選定の際に、脱炭素の取組を条件にする、選定時に加算する、脱炭素に取り組む企業を支援するなど、具体的な

	姿勢を示すことが必要である。開発によって人を呼び込む、稼ぐ力を高めるという場合でも、その裏側には資源・エネルギー消費と二酸化炭素排出がある。森林や農地による吸収も含め、排出削減と吸収の両面を見る必要がある。佐久市が広い視点で開発と環境負荷を捉えていることが、計画上にも見えるとよい。できれば具体的な姿勢が見えてくるとよいのではないか。
--	--

3 閉会